

■ 注意事項

- 1 再生する溶剤の発火点温度が、その沸点温度よりも50℃以上高い溶剤でご使用ください。
- 2 温度差が近い溶剤の場合は、減圧式をご検討ください。
- 3 強酸および強アルカリ性の溶剤（廃液の状態も含む）では、ご使用にはなりません。ライナーバッグが溶けたり、異臭を発する場合があり再生には向きません。
- 4 水との溶解性の高い溶剤から脱水を行うには、その沸点温度が近い場合に完全に脱水できなかつたり、脱水した水に溶剤が混じってしまうことがあります。
- 5 ダイヤフラムポンプを使用して廃液をタンク内に投入するタイプは、廃液の粘性が強い場合、吸い込みがうまくいかず、故障の原因になる場合がございます。また、金属等のスラッジが混ざっている場合もダイヤフラムポンプ内の振動盤が破損してしまう事もございます。廃液の流動性があまり良くない場合は、バッチ式でタンクに直接投入する方法を、お勧め致します。
- 6 ニトロセルローズが混入されている溶剤は再生できません。（発火点が約135℃と低いため危険です。）
- 6 本装置は、主に洗浄等に使用した廃溶剤を再生して溶剤のリサイクル利用に供するもので、塗料などの残渣を固形化するものではありません。残渣物の性状（液状、ゲル状、固形状など）は、その溶剤や残渣の成分そして、設定温度等により異なります。

販売元

株式会社 モリカワ

【環境機器部門】

東京営業所
〒170-0013 東京都豊島区東池袋5-45-5 ASビル4階
TEL.03-5904-9957 FAX.03-5904-9954

<http://www.morikawa-ltd.co.jp/>

MORIKAWA

自動溶剤再生装置

Solvent Recycler



株式会社 モリカワ

Rev1.3 2018091000

廃溶剤を蒸留することにより、クリーンな溶剤
産廃費用の低減と溶剤購入費用の削減ができ、

を回収・再生利用。
PRTR規制への対応も可能です。

Solvent Recycler

本溶剤再生装置は、

再生させようとする廃溶剤を装置内のタンクに入れ、
タンク底部に埋め込んであるヒーターでタンク内を加熱し、

設定された温度まで温めて、

取り出したい溶剤を気化させ、コンデンサーを通して冷却させて
再度液体に戻すという、蒸留再生システムです。

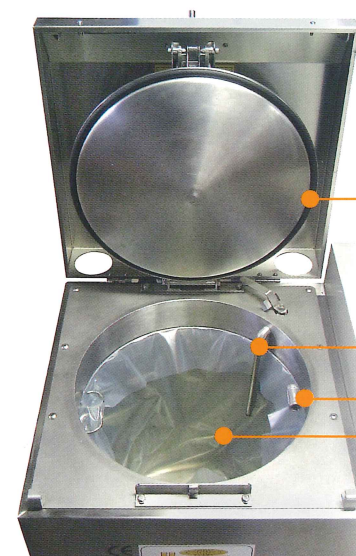
再生させようとする溶剤の沸点を調べて、気化する状態まで加熱し、
取り出したい溶剤だけを出すことができます。

また、再生させた後のタンク内に残っている残留物が、固形化する場合は、
耐熱耐溶剤の特殊バッグをセットしておけば手を汚すこともなく、
きれいに処分できます。

残留物が液状の場合は、タンク底部よりドレン排出が可能です。

Recycle
Reuse
Reduce

蒸留再生後の残渣物の処理も簡単です。



フタシール

廃液注入ノズル

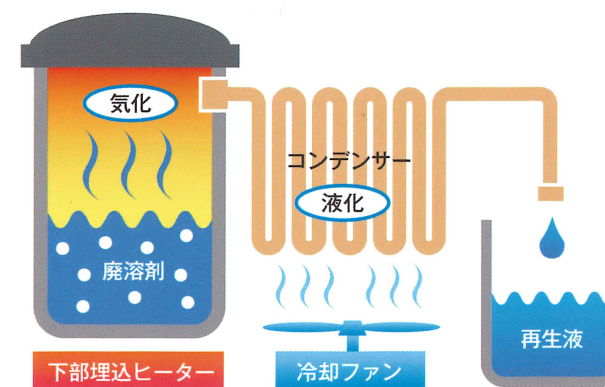
蒸留ガス取入れ口

ライナーバッグ

溶剤を再生した後、蒸留タンク内には残渣物が様々な状態で残っています。切削油のような液状の状態や、樹脂分等の固形化の状態、ゲル化した状態等、ユーザー様によって多種多様です。液状の場合、タンク中心部にドレン穴が開いているので、そこから排出することが可能となっています（機種により、手動タイプ、自動タイプ有り）。

固形化、またはゲル状のような流動性が殆どないような残渣物の場合、専用のライナーバッグを予め蒸留タンク内に装着すれば、蒸留再生後、タンク内からも簡単に取出すことができます。タンクも汚れず、常にきれいな状態を維持することができます。（ライナーバッグは耐熱、耐溶剤になっていますが、強酸、強アルカリの廃液には使用できません。）

溶剤再生装置の仕組み



- ① 蒸留タンク内で廃溶剤を過熱、気化させます。
- ② 気化したガスが、コンデンサー内に入ります。
- ③ 冷却ファンでガスが冷やされ液化します。
- ④ クリーンな再生液が出口より排出されます。

どのような溶剤が再生できるのか。

下記は、再生可能な溶剤種の一例です。その他の溶剤については、お問い合わせください。

炭化水素系溶剤	アルコール系溶剤	ケトン系溶剤	エステル系溶剤	ハロゲン系溶剤
トルエン キシレン ソルベントナフサ ノルマルヘキサン イソヘキサン 等	メタノール エタノール ブタノール イソプロピルアルコール (IPA) 等	アセトン メチルエチルケトン (MEK) メチルイソブチルケトン (MIBK) 等	酢酸エチル 酢酸ブチル 酢酸メトキシブチル 酢酸ノルマルプロピル 等	フッ素系溶剤 臭素系溶剤 塩素系溶剤

連続式

● 常圧式

蒸留再生したい成分以外の物が、液状、または固化してもスラッジの量が少ない場合(スラッジの量が多く、固化する場合、連続運転できる時間が短くなることがあります)。

廃液の排出量が 30～250 ℓ/日程度の場合。

● 減圧式

蒸留再生したい成分の沸点が、約 150℃以上のもので、尚且つ自然発火点が 250℃以下の物。

※全ての機種が一体型防爆構造となっています。

※空冷コンデンサは、全てステンレス製です。

DC 100 NJ / DC 100 PJ

● 常圧式

● 減圧式



連続式

駆動源	単相 200V / 圧縮空気 5～6kg/cm ²
ヒーター出力	4,500W (50%～100%出力調整可能)
蒸留温度	75℃～200℃、1℃単位調整
本体材質	接液、接ガス部：ステンレス・スチール
寸法(mm)	W1060 × H1180 × D600
重量	約150kg
その他	再生液自動移送装置付 廃液自動吸入機能付 処理能力：15～30 ℓ/時間(目安)

CC 70 NJ / CC 70 PJ

● 常圧式

● 減圧式



連続式

駆動源	単相 200V / 圧縮空気 5～6kg/cm ²
ヒーター出力	3,400W (50%～100%出力調整可能)
蒸留温度	75℃～200℃、1℃単位調整
本体材質	接液、接ガス部：ステンレス・スチール
寸法(mm)	W953 × H1080 × D512
重量	約110kg
その他	再生液自動移送装置付 廃液自動吸入機能付 処理能力：10～25 ℓ/時間(目安)

BC 30 NJ / BC 30 PJ

● 常圧式

● 減圧式



連続式

駆動源	単相 200V / 圧縮空気 5～6kg/cm ²
ヒーター出力	3,000W (50%～100%出力調整可能)
蒸留温度	75℃～200℃、1℃単位調整
本体材質	接液、接ガス部：ステンレス・スチール
寸法(mm)	W710 × H1080 × D430
重量	約90kg
その他	再生液自動移送装置付(オプション) 廃液自動吸入機能付 処理能力：5～20 ℓ/時間(目安)

バッチ式

蒸留再生したい成分以外の物(スラッジ)が、液状、固化、どちらにも対応。残留物が固化化の場合、ライナーバッグが必要。

廃液の排出量が 10～150 ℓ/日程度の場合。

IEC国際規格の防爆認証モデル
(IEC60079シリーズ)

※全ての機種が一体型防爆構造となっています。

※空冷コンデンサは、全てステンレス製です。

URS 2000 CE-SSJ



バッチ式

駆動源	単相 200V / 圧縮空気 5～6kg/cm ²
ヒーター出力	3,400W (30%～100%出力調整可能)
蒸留温度	50℃～200℃、1℃単位調整
本体材質	接液、接ガス部：ステンレス・スチール
寸法(mm)	W1060 × H1180 × D600
重量	約130kg
その他	蒸留タンク容量 80 ℓ 廃液ポンプ吸入機能付 再生液ポンプ移送機能付 処理能力：10～20 ℓ/時間(目安)

URS 1600 CE-SSJ



バッチ式

駆動源	単相 200V / 圧縮空気 5～6kg/cm ²
ヒーター出力	2,800W (30%～100%出力調整可能)
蒸留温度	50℃～200℃、1℃単位調整
本体材質	接液、接ガス部：ステンレス・スチール
寸法(mm)	W953 × H1080 × D512
重量	約100kg
その他	蒸留タンク容量 50 ℓ 廃液ポンプ吸入機能付 再生液ポンプ移送機能付 処理能力：7～14 ℓ/時間(目安)

URS 970 CE-SSJ



バッチ式

駆動源	単相 200V / 圧縮空気 5～6kg/cm ²
ヒーター出力	2,200W (30%～100%出力調整可能)
蒸留温度	50℃～200℃、1℃単位調整
本体材質	接液、接ガス部：ステンレス・スチール
寸法(mm)	W710 × H1150 × D430
重量	約85kg
その他	蒸留タンク容量 25 ℓ 廃液ポンプ吸入機能付 処理能力：5～10 ℓ/時間(目安)